

分科会 E | 【男性にとっての男女共同参画】

報告会、基調講演、グループワーク

みんなで語ろう リモート座談会

■日時：11月13日(金) 15:00~16:30



<講師>

川島 高之

NPO法人ファザーリング・ジャパン理事
NPO法人コジカラ・ニッポン代表理事

報告要旨

報告者：横井 寿史（コーディネーター）

分科会E企画グループの当初の打ち合わせにおいては、テーマが「男性にとっての男女共同参画」ということで考えられる内容が非常に幅広いため、具体的にどのような内容にするかが話し合われた。

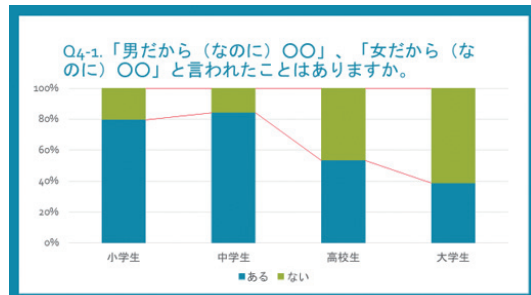
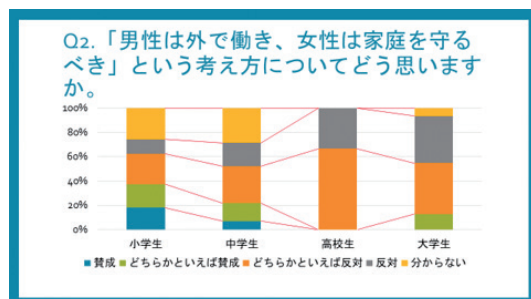
そもそも「男性にとっての男女共同参画」とはなにを指しているのか、また「男性にとっての」と冠すること自体が男女共同参画ひいてはダイバーシティという考え方に反するのではないかとといった意見が出た。そうした話し合いをしていく中で、男女間における役割分業が話題となった際に、そもそも今の若い世代においては、我々（分科会の企画メンバーを差す。概ね40代以上）が思っているほど男女差別のようなものは感じていないのではないかと、という仮説が立てられることとなった。無論、政府が行っている統計等において世代間の意識の違いは認識していたが、実際にこの日本女性会議が行われる刈谷市における若者の意見を聞き、それらを発表したら面白いのではないかとということになった。

実はこの分科会においては、日本女性会議2020あいち刈谷大会が開催される前年にプレイベントを行い、その場では多くの大学生と幅広い世代の参加者同士が意見交換をし、確かに世代による意識の違いを実感することができた。

そして実際に、刈谷市内の小中高大に通う学生を中心に、男女共同参画に関するアンケートを行った。その結果によると、『男性は外で働き、女性は家庭を守るべき』という考え方についてどう思うか』という質問に対しては、ほとんどの世代において「反対（どちらかといえば反対も含む）」が多数を占めた。

しかしながら、小学生に対するアンケート結果だけをみれば賛成と反対はかなり拮抗しており、また中学生においても賛成は2割を超えており、依然として役割分業の意識が垣間見られた。『男だから（なのに）〇〇、女だから（なのに）〇〇』と言われたことはありますか』という問いに対しては、小中学生においては大多数が「ある」と答え、高校生においても半数を超える人が「ある」と答えており、そうした価値観にさらされることで、役割分業の意識を植え付けられてしまった可能性もあるだろう。

日本女性会議の本番においては、それらのアンケート結果を発表した上で、父親の子育て支援をしている特定非営利活動法人ファザーリング・



ジャパン理事の川島高之氏による「男性にとっての男女共同参画」をテーマにした基調講演を行った。

基調講演後は、アンケート結果や基調講演を踏まえて、いくつかのグループに分かれて意見交換を行った。

参加者の意見や感想を見聞きして一番印象的だったのは、「男女の役割分業について問うのはテーマとしては古いのではないか」というものだった。

確かに男女差別を考える際には、いままでも常にテーマとして掲げられるものであったし、政府においても継続して調査している項目であって、既視感を覚えるものであったかもしれない。現代においては、男性にとっての男女共同参画ということで管理職の働き方や、人生100年時代における定年後の在り方などについて議論することも意義があっただろう。

しかしながら、若い世代に向けたアンケート結果を見て分かるように、現代においても未だに「男は男らしく、女は女らしく」といった価値観を押し付けられる社会であって、この一見古いと思われるテーマは、解決されていない。

我々の分科会で問題提起したかったのはまさにその点なのである。性別よりも個人個人の考え方が重要だとするのであれば、「男性は〇〇、女性は〇〇であるべきという考え方についてどう思うか」という問いには明確に「反対」となるはずである。しかし、アンケートの結果では明確に「反対」と答える人は、「どちらかといえば反対」と答える人より少なかった。

明確に「反対」と答える人が少ない理由はいくつか考えられるが、まだまだ性別による役割分業の意識が根付いていることが大きな理由ではないだろうか。

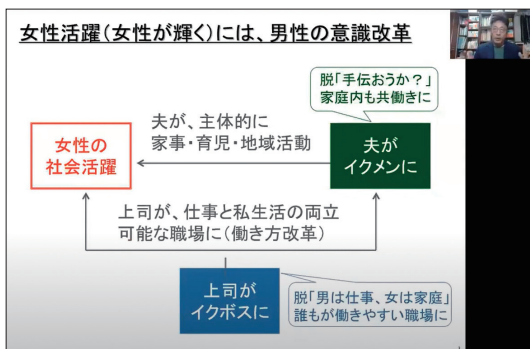
男性が当たり前家庭生活において活躍しない社会においては、女性の活躍も実現しないのである。

「賛成」「どちらかといえば賛成」

小学生・中学生	高校生・大学生
<ul style="list-style-type: none"> 男性の方がお金を稼ぎやすくなっているから 女性は育児が大変だから 女性は家事育児をしているだけで大変だから それが当たり前だから 女性の方が育児に詳しいと思うから 子供を産むのは女性だから 男は力があり、女は料理ができるから それが平等だから 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の両親がそうだったから 子育てとかがあるがガッツリ働くのは大変

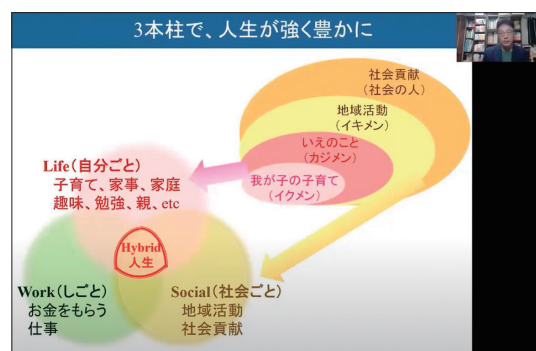
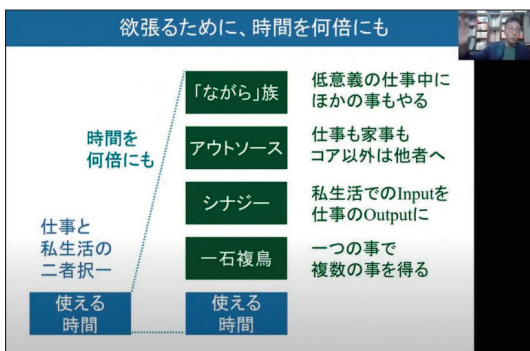
「反対」「どちらかといえば反対」

小学生・中学生	高校生・大学生
<ul style="list-style-type: none"> 男性も家事育児を体験した方がやさしくできる 男性でも家事などが得意な人もいると思うし、女性も家事がやりたくない人も思うから そうやって決めつけると働く女性が悲しそう 女性が家事をしないといけない決まりはないから 両親が働いているから 女性だけ仕事をしてはいけないはず 女性が働いたからって女性に育児をまかせっけりばよくない 	<ul style="list-style-type: none"> 今と違って、学校では男子でも女子でも家庭科、理科の習字を取らされているし、男性が家庭を守ってもよいと思う 性別で行動を制限してはいけないと思います。女性でも社会に積極的に出てほしいし、男性でも、育児に積極的に関わりましょうと思います 女性の社会進出をまたげる機会だから



話を戻すと 私生活が、仕事力を高める

Work 仕事の能力、成果	視野や人脈が広がる、生活者視点を得る、感性が磨かれる、イノベティブな人になる
UP	マネジメント能力、部下育成力、コミュニケーション能力が高まる
Life 家事、育児趣味、勉強親孝行、健康	段取り力が高まる、効率的になる主体的になる、「No」と言える
Social 地域活動ボランティアNPO	笑顔が増える、健康になる、精神の安定働く意欲が高まる、踏ん張りがきく 肩書の無い自分(の実力)を知る



●企画メンバー

横井 寿史 岡 由香 白瀧貴美子 杉野 愛 鈴木 昌子 高尾 絵美 武田 清美 橋本 淳邦 樋口 大河